

## 平成31年度（令和元年度） 第4回近江八幡市子ども・子育て会議 要録

日 時 令和2年2月17日（月）午後2時30分～4時30分  
会 場 近江八幡市防災センター3階 会議室  
出席委員 ◎中川 千恵美委員、○小西 ひとみ委員、  
田中 裕喜委員、榎本 祐子委員、田中 由佳委員  
浅井 雅委員、中井 佳世子委員、毛利 芳子委員  
榊原 かず子委員、山本 恵子委員、河村 加恵委員  
杉本 僚子委員、福永 利明委員、寺村 浩委員  
久家 昌代委員、  
（欠席）寺田 久乃委員、北 拡大委員、平井 徹委員、  
重野 弘樹委員、大野 康記委員、前出 みずほ委員  
見島 めぐみ委員  
◎：会長等、○：副会長等

傍 聴 者 0名

議 題 (1) パブリックコメントの結果について  
(2) 第二期近江八幡市子ども・子育て支援事業計画ハチピープラン  
（素案）について  
(3) 第二期近江八幡市子ども・子育て支援事業計画ハチピープラン  
概要版（案）について  
(4) 近江八幡市子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査  
報告書（案）及び概要版（案）について  
(5) その他

### 議 事 詳 細

#### 1. 開会

#### 2. 会長あいさつ

会長：昨今、コロナウイルスの報道等も、新たなステージにはいっているようで、関東圏中心にはなっていますが、まだ何かはっきり伝達も感染の仕方もわからない状況で、世の中の不安はこうやって増強していくものなんだなということを改めて実感しているところです。どうぞ皆さん、出会う子どもたち、それからそのご家庭の皆さんが安心して日々を過ごせるよう、1つでも的確な情報を共有して、子どもたちに伝

えていただきたいと思うところです。次年度からの新たな子ども・子育て支援事業計画を、皆さんが関わるお子さんやご家庭に、内容をより分かりやすく伝えていただきたいと思います。計画を作るということもとても大切なプロセスでしたが、それを着実に浸透させていくということを大切にしていけたらというふうに思っております。

### 3. 議題

- (1) 第二期近江八幡市子ども・子育て支援事業計画ハチピープラン（素案）について事務局より、資料1に基づき、第二期近江八幡市子ども・子育て支援事業計画ハチピープラン（素案）について説明。

中川会長：今、事務局の方から7名の方から13の点に関してパブリックコメントが寄せられたということで、これについての市としての考え方を説明いただきました。パブコメというと、ほとんど意見がないとか、スルーされているということが多いと思いますが、市民の皆さんに詳しく、それぞれのお立場で確認いただいたのかなと思いつつ読みました。何かご確認とか、ご意見かはいかがでしょうか。

委員：パブコメの3番目、放課後児童クラブについて目にとまりました。北里学区内は1つしか学童がない状況で、今回定員45名のところに50何人という子どもたちから申し込みがあって、その方々を他の学区の学童に行ってくださいというのはちょっと申し上げにくく、一応説明会では、他の学区にも学童があるのでそちらに行ってくださいという説明はさせていただいたうえで、たくさん申し込みいただきました。そこを考えると、市の回答である「運営事業者に必要な指導等を行っていきます。また必要に応じて、施設や放課後児童支援員の確保についても働きかけていきます」というお答えは、少し内容がずれているのかなと思います。学童側として、支援員は確保しているが、市の補助金が減額というかたちになって、反比例していくにあたって、市からこういう指導をいただいたとしても、対応できないところが出てくるので、この文面だけを市民に返すのはどうなのかなと思います。

会長：市が載せていますこの文言に関して、現状北里学区での事例を踏まえてのご意見だったと思いますが、いかがでしょうか。

事務局：今のご意見に対してですが、適正規模を36～45、概ね40人以下というところで、近江八幡市の放課後児童健全育成事業のガイドラインにも示させていただいたところがございます。地域においては、やはりまだばらつきがありますので、そのニーズを見つつ、適正規模を守れるようなかたちで、今後も整備を考えていきたいと思っております。あわせて、指導員が不足しているというクラブも多いということがございますので、支援員の確保についても、事業所まかせにせず、市の方も積極的に働きかけていきたいということで、このような回答をさせていただ

ております。補助金については国の基準に今年度から合わせたこともあって、45人を超えていくと、どうしても少しずつ減額されていくというところがございますので、これも踏まえて、45名以下というところが適正規模になってくるかなと考えております。

委員：国基準ということはよくわかっているつもりですが、北里というところは、新しいクラブができていないところで、他の学区の学童に行きなさいということになると、保護者さんは、お迎えを考えなくてははいけません。車をお持ちの方はいいのですが、車を持っていない方はどうして行くのか、そこも疑問に思います。また、空き教室がない学校であったら仕方ないですが、公民館、小学校の空き教室もあるようですので、そういうところを活用して、もう1支援ということが、どうしても考えられなかったのかなと思います。45人定員のところでガチガチでって考えるのではなくて、国基準で考えるのだったら、もう1支援増やすという考え方になぜ至らなかったのかなとちょっと疑問に思ったので質問させていただきました。

会長：小学校の子どもたちの放課後、安全に過ごせる場所の確保ということと、子どもの人口減少という現状との折り合いについて、高学年の考え方や、ニーズ調査の結果を含め、市としても勘案することがあると思います。一方、実際の保護者の声や動向を見ながら、教室をうまく運用できないかという、具体的な提案もいただきました。弾力的な運用も、視野に入れて考えていただけるというところですが、目の前の、来年の50人の申し込みを思うと、事業所とすれば非常に辛いということでした。そのあたりの狭間の、実際の声をこうやって聞かせてもらおうと、このパブコメだけでは測りしれないやりとりもしていただいていると思いがらうかがいしました。ぜひ、実情に応じた、利用する方にとって少しでも選択ができる余地も加味いただいた検討をいただければと思いました。

委員：この文言が、市民に公開されてしまうことによって、努力されている事業所の方が、責められるような結果になってはいけないと強く思っています。表現の仕方を変えただけでも全然違うと思いますので、もし可能でしたらよろしく願います。

委員：4-2の大きな公園の充実について、近江八幡では大きい遊具がなかったので、市内にあったらいいなと思っていました。このパブリックコメントをくださった方と同じで、健康ふれあい公園にすごく期待しているところです。あと、近江八幡の公園は駐車場がなくて利用がしにくいというところも、もう少し検討していただけるとありがたいなと思います。

会長：そうしましたら、学童に関するご要望が多かったということで、複数整備されている学区と一つだけの学区、今後の人口の推移などもあると思いますが、公設民営と民設民営が共同して子どもたちの放課後を提供するというところでやっていただいています。今回のガイドラインのような文言もこの素案に加えていただきましたの

で、それが実体化していけるようにしていきたいと思います。また、先ほど意見があったところに関しては、事務局と改めて確認し、文言の方を調整させていただきたいと思っています。

(2) 第二期近江八幡市子ども・子育て支援事業計画ハチピープラン（素案）について  
事務局より、資料2に基づき、第二期近江八幡市子ども・子育て支援事業計画ハチピープラン（素案）について説明。

会長：本議題のハチピープラン素案についてというところにつきましては、報告事項として扱わせていただきたいと思います。最終、誤字脱字等を確認いただきまして、市長への答申をさせていただきたいと思っています。

(3) 第二期近江八幡市子ども・子育て支援事業計画ハチピープラン 概要版（案）について

事務局より、資料3と参考資料（イメージ図）に基づき、第二期近江八幡市子ども・子育て支援事業計画ハチピープラン 概要版（案）について説明。

会長：少しでも利用される保護者の方たちにとって身近にこのハチピープランというものが届くようにという趣旨で、カラー刷りでイラストを入れた体裁で作成するということだと思います。こういうレイアウトがよいのでは等、ご意見をいただければと思います。

委員：「親子のつどいや相談」のところで、最近アクアにできた拠点の記述はないのですか。

会長：この利用者支援事業で、「開設した基本型を含む2か所と」というような、さらっとした記述だけで終わっていてということでしょうか。もう少し具体名が入らないのかという意見です。

事務局：利用者支援事業の説明の中に入れさせていただくということになると思いますけど、検討させていただき、入れられそうであれば入れてみたいと思います。

委員：語句について、1号認定、2号認定、3号認について何か説明があったほうがいいかなと思います。あと「確保方策」については「確保予定数」などのようにわかりやすい語句で書いたほうがいいと思いました。

会長：これは、個人のイメージ、意見として知っていただけたらとおもいますが、イメージ図のイラストについて、「きめ細やかな関わりを必要とする子ども・家庭への支援」というところで、相談したいイラストの方がフィットしやすいかなと思ったところです。

副会長：字の大きさについて、細かい字は読みにくくなります。できれば字を大きくするなり、間隔を開けるなりして、読みやすくしていただいた方がいいです。

委員：資料3の3ページの星印のところ「子ども・子育て支援法で計画掲載について定め

られた法定事業です」と書いてあるのですが、「国で定められた事業です」とか、堅苦しくないかたちで書いた方がいいのかなと思いました。また、母子家庭とか、虐待とかいう部分のイラストをもう少し考えていただきたいと思います。あと利用者支援事業に「情報提供・案内」と書かれているんですけど、「相談」という部分を大切にできたんじゃないかと思うので、ここに「相談」ときっちり入れていただけたらいいのかなと思いました。

委員：利用者支援事業というのは、さまざまな相談にのるというところなので、例えば「あらゆる相談の窓口」みたいに書くと、「分からなかったらここに電話しよう」と市民の人が感じられると思います。

会長：「情報提供・案内」の欄に「あらゆる相談の窓口」と入れるということでご検討ください。利用者支援事業で受け止めて、振り分けていく、そういう役割も果たしていくという趣旨、ご指摘でした。

委員：すべての事業について子ども支援課さんの方に連絡させていただいたらいいんですか。もうちょっと各担当課の連絡先を入れておくといいのではないのでしょうか。

事務局：計画の発行元として記載していますのは、この計画について所管してるという意味です。先だってもしましたが、子育てガイドブックハチピースタイルにはそれぞれの事業の問い合わせも記載しています。

会長：連絡先がここに入ったらということですかね。ページのレイアウトが難しくなるかもしれませんが、対応する部署のQRコードをいれるとかとか、または「各取組については、ハチピースタイルをご参照ください」と文言いれる方法だと、まだ修正が少ないのかと思います。連絡先というのがあると便利だなというのは、利用者目線に立ったご意見ではないかなと思いました。

委員：参考のイメージ図について、「子育てしやすい環境か」のグラフで平成25年度と30年度を比べたら、25年度よりも30年度の方が「思わない」というのが、「思う」と逆転しているようなかたちなので、ここでマイナスのインパクトを与えすぎないような方策が何かあればいいかなと1つ思います。もう1つは、人口推移のところですが、年齢の区切りが0～2才、3～5才、6～11才、12～14才になっているので、同じ対象年齢区分にされた方がいいと思いました。

事務局：イメージ図の真ん中の表は掲載をしない方向で作業をしています。

委員：それはなぜですか。

事務局：アンケート調査の結果自体は、計画、ニーズ調査結果報告書やその概要版に掲載するので、資料3概要版には載せなくてもいいのかなと思いました。人口推移の表については、平成31年の状況と令和6年度の推移を、0～2才、3～5才、6～8才、9～11才の年齢区分で掲載するようオーダーをかけています。

委員：人口の推移については、現在と未来だけではなくて、過去もあった方がわかりやすいのではないかと思います。もう1つ、子育てしやすい環境かのグラフはあったほ

うがいいと思います。アンケートでは、子育てしにくくなっている傾向で、それをアンケートの結果は別紙にありますよみたいなかたちでは、ちょっと心苦しいんですけど、いかがでしょうか。25年度と比べて、30年度は悪くなったとっている。だから我々は、皆さんの意見を十分聞いて、いろいろ検討して、こういったものをつくりましたよという説明でいいんじゃないでしょうか。だから公園も計画に基づいて整備していく。全体をひっくるめたら前向きにとらえていただける。これは事務局だけでなく、委員さんにもお聞きしたいのですが。

事務局：1つ申し上げさせていただきたいのは、これを隠そうという意図はまったくないということです。このグラフに関しては、その他に掲載している冊子がいくつかありますので、特段載せる必要がないと思っていました。それと親しみやすい概要版にしたいというところで、まちの声としてこんな声がありましたみたいなページにしたいと思っていました

委員：まちの声を載せるよりも、アンケート調査をしたその結果を載せた方が良いと思いますが、あまり出たら具合が悪いということですか。私はやってもいいんじゃないかと思いますが。

事務局：その方が概要版がよりよいものになるというようなご意見でございましたらまだ修正できますので、この場でそれについて決めていただきたいと思います。

会長：実際こういう現状があって、だからこうした点をこれから大事にしていきますというところで載せたらどうかという意見でした。事務局としては、ヒアリング調査の意見をまちの声として、イラストみたいな感じで載せることを想定していたようです。

委員：データがあった方がいいと思います。データを載せるというのは、自分事で考えられる資料だと思っていて、子育てしやすいとあまり思わない人がいるというところで、なんでなんだろうとか、自分たちはどうしていったらいいんだろうと考える人も出てくると思います。そのデータはあったが、市としてはこういうことをしていくから大丈夫ですよという安心できる材料を入れるのはすごく賛成ではあります。

委員：このグラフだけだったら、この市はこんな程度なんだと思われてしまうと思います。一番重要なことは、これから、こういう施策をしますよということだと思います。どうしても必要だというのだったら、載せていただいてもいいんじゃないかなと思いますが、載せるのだったら小さくでもいいかなと思います。市はこれに取り組むのだなというところを、やはり大きく載せていただきたいかなと、私は思います。

委員：アンケート調査は、就学前児童保護者と就学児童保護者に実施したのに、就学児童保護者の分はでていません。「安心して子育てできる地域づくり」を目指し、これから先、いろんな施策をこうやってやっていきたいと思いますと考えてる中で、このグラフを出す意味と、どういうことを近江八幡市はやっていくのかということをやちゃんと

提示しないと、これだけが独り歩きする感じがするので、もう少し考えるべき内容かなと思います。

委員：この質問は、近江八幡市の子育て支援サービスが少なく、子育てしやすくないという感じだったのか、それとも、社会全体として、子育てがしにくいなということで数値が出ているのか、どちらの観点でこういう数値が出ているのかわかるような質問だったのでしょうか。

会長：「あなたは、近江八幡市を子育てしやすい環境であると感じていますか」という設問でした。

副会長：先ほどの意見と同じで、もし載せるならアンケート調査の概要版と同じように「就学前児童の保護者、小学校の保護者」も載せておかないと、一般の人にはちゃんと伝わらないと思います。ただこれは事実で、すごく大事だと思いますが、保育料無償化なんかは現時点でできていますよね。だから、もしこれを書くなら、今の時点ではこうなっていますとか、市の方向性とか、そういうのを入れた方が、市民の方にはわかりやすいのかなと思います。

会長：そうしましたら、事実としてやったニーズ調査の結果として、グラフを載せるのでしたら就学前だけではなく、小学生のものも載せることとし、だからこそ、こういう取組をこれからの5年間しっかりやっていきますということがわかるようなレイアウトにしていく。これからに向けてどうするのだということが書かれていることが大事ではないかというのが、皆さんのご意向と理解させていただきました。

#### (4) 近江八幡市子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査報告書（案）及び概要版（案）について

事務局より、資料4・5に基づき、近江八幡市子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査報告書（案）及び概要版（案）について説明。

会長：報告事項ということでご理解いただければと思います。

副会長：1点だけ。ニーズ調査の86ページと概要版の8ページですが、平成25年度が保育所と幼稚園を足して39.0%ありますよね。だったら空白にするより、それを載せて注釈でこういうまとめ方したと説明した方が分かりやすいと思います。

#### (5) その他

事務局より以下の施設整備について報告。

- ・岡山学区で社会福祉法人紫雲会が、認定こども園を令和2年4月に開園予定。
- ・土田町地先で社会福祉法人こころざしが、認定こども園を令和3年4月に開園予定。
- ・岡山学区でこどもの家を令和2年4月に開設予定。
- ・金田学区でNPO法人ファミリーサポートまあむが、放課後児童クラブ施設を令

和2年4月に開所予定（建て替え）。

- ・子育て支援センタークレヨンと一般型の利用者支援事業について、岡山幼稚園の園舎に移設予定。

#### 4. 閉会挨拶

子ども健康部長：本日は大変お忙しい中、4回目の子ども・子育て会議にご出席いただきまして、熱心にご討議いただきまして本当にありがとうございました。本年度は、子ども・子育て支援事業計画の策定年度ということで、数多くの協議の場を持たせていただきました。皆様方には、その都度、子どもと子育て家庭を支援する環境を少しでも良くしようという熱い思いをもって協力いただきました。来年度から令和6年度を期間とする計画案を、「ハチピープラン」ということで、大変親しみがある愛称まで名付けていただいた中で、無事に取りまとめることができました。人口減少の中で、行政としては、待機児童の解消ということで、就学前施設のニーズを考えるにあたって、どのようにしていくのか、また同時に、人材という部分でも、質の向上も非常に問われています。無償化や施設の老朽化もふまえて、今後のあり方について、引き続き、皆様のご意見をいただきながら真剣に取り組んでまいりたいと思います。その中で、セーフティネットという部分も大事だと思っています。ひとり親家庭だったり、虐待であったり、貧困であったり、障がいであったり、外国人であったり、そういうことについてもしっかりと行政としては取り組んでまいりたいと思っています。放課後の居場所についても、放課後子ども総合プランということで、放課後子ども教室など、コミュニティスクールの中において、しっかりと取り組んでまいりたいと思っております。計画に掲載します151の事業を着実に進めるとともに、地域住民の皆様や、子どもに関わるさまざまな関係機関の皆様にもお力添えをいただきながら、地域全体で子どもと子育て家庭を見守り、支えるまちを目指していきたいと考えております。本日はありがとうございました。

副会長：皆さん、本当に長期間にわたり、忌憚のないご意見をたくさんいただきましてありがとうございます。現在、新型コロナウイルスがすごくマスコミをにぎわせておりますが、インフルエンザもあります。皆さん気をつけて、健康で過ごしてください。今日は本当にご苦労様でした。